

◆ Grass Valley、メディアの未来を NAB ショー 2022 で提示



セントラルホール C2107

Grass Valley は、4月24日～27日にラスベガスで開催された NAB Show 2022 に出展し、セントラルホール #C2107 にブースを構えた。3年ぶりに開催される NAB Show では、お客様がメディア・エンターテインメントの未来へ移行する中で、IP・ソフトウェア・クラウドの技術を通じて、どのように業界をリードしているかをご覧ください。4月24日(日)の記者会見で、Grass Valley は主要なニュースと重要な戦略的パートナーシップを発表した。

「今年の NAB では、私たちがメディアプロダクションの未来をどのようにとらえているかを発表します。このビジョンによって、メディア業界を変革するリーダー的役割を果たすことができると確信しています。お客様やパートナーの皆様と直接お会いし、GV のビジョンが、すべての皆さまに、ビジネスやテクノロジーのニーズに合わせてオンプレミスとソフトウェアを組み合わせたライブ制作環境を構築する力を与え、何よりも素晴らしい番組を制作可能であると実証できることを楽しみにしています。記者会見では、私たちのビジョンを詳しく説明するとともに、エキサイティングな新しい方向性をお伝えする予定です。」(Grass Valley、CEO、Andrew Cross 談)。

映像コンテンツを Grass Valley のカメラで収録し、GV AMPP (Agile Media Processing Platform) でアセットマネジメント・編集・プレイアウトまで、GV が考える未来の制作環境の旅を、会場で体験していただけるよう企画しました。ブース内には、Grass Valley の主要パートナー 5 社 (Appear、EditShare、Flowics、Haivision、Telos Alliance) のポッドを設置し、AMPP と統合して完全なビデオワークフローを実現するサードパーティツールを紹介しします。

Grass Valley ブースでは、以下のような最も包括的なハイパフォーマンス・ライブプロダクションテクノロジーを間近で見ることができます。

LDX 150・LDX 90 - 高性能プロダクションカメラ

AMPP— 既設ソリューションをクラウドに接続し、配信・マルチビューワー・リモート収録などの技術を提供する、未来のインフラストラクチャ AMPP アプリケーション— 制作に必要なすべての主要部分を網羅し、既設のソリューションに接続でき、ローカルま



たはクラウドで稼働します。

AMPP Live — Live Producer、K-Frame on Cloud、リプレイ、カラーグレーディング

AMPP Asset Management — インジェスト、フルワークフローエンジン、AI 連携

AMPP Playout - ライブリニア TV、OTT へのコンテンツ配信

IP インフラ・プロセッシング - GV K-Frame、GV Orbit

2022 年 Devoncroft Executive Summit の主要スポンサーとして、Grass Valley のエキスパートがショー期間中に講演、- Larissa Goerner が「Media in the Cloud and the Super User Group」に登壇

- Klaus Weber が「Optimized Camera Integration in IP-based Workflows and Infrastructures」に登壇

記者会見で発表された、Grass Valley の主要なニュースと重要な戦略的パートナーシップ。

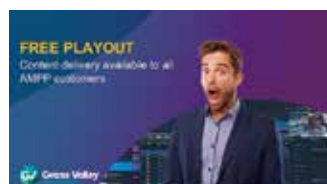


●アマゾンウェブサービス (AWS) とグラスバレー、協業した。



●グラスバレー、Epic Games 社の Unreal Engine を活用、GVAMPP で比類のない活用をする。

フォトリアルな甲と没入型体験を提供する世界の決定 3D 制作サービスであり Unreal Engine を GVAMPP (アジャイルメディアプロセッシングプラットフォーム) で挙します。



●グラスバレー、AMPP プレイアウトフリーエディションを

ケーキ、コンテンツのビジネスモデルを購入

グラスバレーは、NAB Show のプレスメディア、GV AMPP (アジャイルメディアプロセッシングプラットフォーム) AMPP Playout フリー版は、6月1日から提供されます。

◆ソニー・ソニーマーケティング:国際放送機器展「NAB Show 2022」に出展

クリエイターを支える最新のイメージング商品群、IP やクラウド技術を活用したソリューションを展示

ソニーは、米国ラスベガスにて現地時間 4 月 24 日から開催される国際放送機器展「NAB (National Associations of Broadcasters) Show 2022」に出展した。

「Live Your Vision (リブ ユア ビジョン) ※ 1」をテーマに、ソニーの最新技術を用いた、多様化するクリエイターを支えるイメージング商品群や、リモートや分散での映像制作とワークフローの効率化を支える IP (Internet Protocol) やクラウド技術を活用したソリューションなどを一挙に展示した。ラスベガス現地のブースのほか、ソニーの特設サイト (https://pro.sony/ue_US/events/nab ※英語のみ) でも展示を行う。

新型コロナウイルス感染症の拡大期を経て、映像制作業界での働き方や制作手法の在り方は大きく変化している。ソニーは、撮影から編集、コンテンツ管理・配信に至るまで、映像制作の一連のワークフローにおける多様なニーズに対応した、より効率的で高品質な映像制作環境を提供する。また、さまざまなクリエイターに寄り添い、映像を通じて感動を届けることに貢献する。

※ 1: 「お客様に寄り添い、声を聴き、技術力を以て期待を超えていきたい」という意思を込めています。

● 主な展示内容

1. 多様化するクリエイターを支えるイメージング商品群



マルチフォーマットポータブルカメラ『HDC-3200』(新製品) グローバルシャッター機能付き 2/3 型 3 板式 4K イメージセンサー搭載の、コストパフォーマンスに優れたシステムカメラ。背景に LED ディスプレイがあるようなニューススタジオでも、高画質な撮影が可能。4K HDR のほか、HD 120 コマの高速撮影、1080-59.94i/59.94p/29.97PsF/23.98PsF など、さまざまなフォーマットに対応する。

カメラコントロールユニット『HDCU-3500 / 3100』や IP カメ

ラエクステンションアダプター『HDCE-TX50 / TX30』との接続が可能で、IP Live プロダクションシステムにも対応する。また、従来製品のビューファインダーや大型レンズアダプター、リモートコントロールパネルとの接続もでき、既設機器を流用した柔軟なシステム構築が可能。

日本市場への導入は検討中。

大型レンズアダプター『HDLA-3505』/『HDLA-3501』(新製品)

両機種とも、HDC シリーズのポータブルカメラと組み合わせ、スタジオ制作・中継制作の大型レンズ運用時に活用できる。インスタントドッキングメカニズムを備え、カメラ底部に設けられたコネクタと接続し、信号・電源・制御のインターフェースをケーブルレスで行える。また、スマートフォンやタブレット端末への電源供給が可能な USB 端子を搭載している。

『HDLA-3505』は、従来機種と同様に、機器後面に操作パネルを配置し、カメラメニューの操作やカーソルの設定、カメラの各機能へのクイックアクセスが可能。また、新たに LCD (液晶) を搭載し、LCD 上にカメラリターン映像・HD プロンプター映像の表示ができるほか、本機の HD-SDI 端子に入力した映像を簡易モニタリングをすることができる。任意に機能の割り当てが可能な 5 つのアサインボタンも搭載しており、使い勝手に合わせてカスタムすることができる。さらに、パーツを追加することで、スタジオ用ビューファインダー『HDVF-EL70』との接続も可能。

『HDLA-3501』は、後面パネルがなく、接続したポータブルカメラ本体にアクセスしやすい、シンプルな構造の大型レンズアダプター。本機からは、カメラメニューの制御やタリーランプのオン/オフが可能。

発売日: 2022 年 6 月 希望小売価格:

『HDLA-3505』1,980,000 円 (税込) (税別 1,800,000 円)

『HDLA-3501』1,650,000 円 (税込) (税別 1,500,000 円)

4K HDR 対応ピクチャーモニター PVM-X シリーズの無償ファームウェアアップデートと有償オプションライセンス

『PVM-X3200 / X2400 / X1800』の機能を拡充する無償ファームウェアアップデート (Ver 4.0) を 2022 年 8 月に予定している。また、有償オプションライセンス『PVML-HSX1』の機能を、



『HDLA-3505』



『HDLA-3501』

4K-HD 変換、I/P 変換、3D LUT 変換に限定した『PVML-SCX1』、LUT 適用後の信号出力に限定した『PVML-TDX1』を同時発売予定。Ver 4.0 では、中継地名や再生準備状態などが確認できるモニター内表示 (IMD) やタリー表示に対応し、クアッドビュー切り替え時にも使用できる。また、カメラの色調整に用いるクロマアップや水平垂直確認に用いるグリッドディスプレイ、機能を自由に割り当てられシステム構築に役立つパラレルリモート、クローズドキャプションにも対応する。有償オプションライセンスにより利用可能となる拡張 SDI 出力は、収録素材のスタッフ用モニターへの配信やオフライン収録に役立つタイムコードやエンベデッドオーディオに対応する。

2 波受信対応ポータブルダイバーシティーチューナー『URX-P41D』^{※2}



『UWP-D21』や『UWP-D22』に代表される新 UWP-D シリーズである『URX-P41D』は、デジタルオーディオインターフェースを追加した Multi Interface Shoe™ (マルチインターフェース (MI) シュー) に対応しています。別売りの MI シューアダプター『SMAD-P5』^{※3} およびソニー製 XDCAM™ カムコーダーや Cinema Line カメラ『FX9』/『FX6』/『FX3』およびミラーレス一眼カメラ α™ (Alpha™) シリーズ^{※4} などと組み合わせると、ノイズが少ない高音質のデジタル音声をカメラに直接伝送して録音することができます。また、外部マイク入力端子を備え、話者や演者 2 名に加え、インタビュアーまで含めた 3 チャンネルをミックスしたオーディオ録音が可能です。

- ※2: 詳細はこちらのお知らせをご覧ください。
- ※3: 『SMAD-P5』には後方互換性があり、従来の MI シューを搭載した一部のカムコーダーでも、アナログ音声接続でご使用できます。
- ※4: 対応するカメラの情報は、『SMAD-P5』の商品ページをご確認ください。

デジタルシネマカメラ『VENICE 2』の撮影フォーマット拡張
2023 年初頭リリース予定の Ver.2.0 により、『VENICE 2』の撮影フォーマットがさらに拡張し、以下イメージャーモードでの撮影に対応する。

- ・ 8.6K 17:9 最大 48 FPS
- ・ 8.2K 2.39:1 最大 72FPS
- ・ 8.1K 16:9 最大 48FPS
- ・ 5.8K 4:3 最大 60FPS
- ・ 5.5K 2.39:1 最大 120FPS

また、アナモフィックレンズ使用時の Zoom to Fit (ズームトゥフィット) 機能を追加し、さらに多様なコンテンツ制作のニーズに対応する。

2. IP を活用したライブ放送映像制作ソリューション

ソニーは、映像だけでなく、音声やメタデータ、同期・制御などの

信号をリアルタイムに IP 伝送し、遠隔地のカメラを使ったリモートプロダクションや、複数拠点をネットワークでつないだ分散ライブ制作等が可能になる IP Live プロダクションシステムを推進している。ネットワークベースのメディア伝送において高い技術を有するグループ会社の Nevia (ネヴィオン) 社とも連携しながら、オンプレミスやクラウドも含めて各拠点間の機器をよりシームレスにつなぐリモートプロダクションや分散ライブ制作の実現を目指している。

ソニーの IP Live プロダクションシステムは、2022 年 4 月現在、世界各国で 160 以上の中継車・スタジオシステムなどに採用されている。

Nevia 社のメディアネットワーク用 SDN コントローラー『VideolPath』にブロードキャストコントローラー機能が追加

『VideolPath』は、高度な SDN (Software Defined Network = ネットワークの経路制御の一元管理を可能にするソリューション) 技術を駆使し、メディア伝送用ネットワークの高い柔軟性と耐障害性を実現する、SDN コントローラー・ソフトウェアです。今夏予定されているアップデートにより、IP Live システムマネージャー (LSM) が提供してきた、TSL タリーの生成やサルボ機能、エイリアスの設定などのブロードキャストコントローラー機能が追加される。これにより、IP ベースの放送設備や中継車なども含むライブ映像制作のワークフロー全体を、より効率よく運用することができます。

また、このアップデートにより、新たにソニーの制御用プロトコルである『NS-BUS』に対応することで、リモートコントロールパネル『MKS-R1620 / R1630 / R3210 / R4020』や、SDI-IP コンバーターボード『NXLK-IP50Y / IP51Y』、ライブプロダクションスイッチャー XVS シリーズのシステムアップが可能となる。

3. リモートや分散映像制作におけるワークフローの効率化を支えるクラウドソリューション

ソニーは、クラウドを活用したソフトウェアベースの映像制作・管理ソリューションとして、5 つのサービスを展開しています。クラウドによる高い柔軟性と拡張性でリモートや分散映像制作ニーズに応え、ワークフローの効率化を支援します。

- ・ライブ映像制作に向け、遠隔からの映像・音声の切り替えやグラフィックス挿入などが可能なクラウド中継システム『M2 Live (エムツーライブ)』^{※5}
- ・効率的なメディア共有・運用を実現するパブリッククラウド型 (SaaS^{※6}) の映像制作コラボレーションツール『Ci Media Cloud Services (シーメディアクラウドサービス)』
- ・現場の撮影素材をスマートフォンを介して効率的にクラウドへ転送するなど、映像制作の迅速化をサポートするカメラ連携クラウドサービス『C3 Portal (シースリーポータル)』
- ・制作ワークフロー自動化、映像解析やコンテンツ管理など、複数の異なるマイクロサービスを組み合わせ、クラウド上でスケラ

ブルに構築可能なシステムソリューション『Media Solutions Toolkit (メディアソリューションツールキット)』

- ・ソニー独自の技術を含む多様な AI エンジンを経営的に活用し、制作ワークフローを効率化する『Media Analytics Portal(メディアアナリティクスポータル)』

※ 5: NAB Show 2022 では、Cloud Live Production System として参考出展します。現時点で日本国外でのサービス提供時期は未定です。

※ 6: Software as a Service の略。利用者側でソフトウェアをインストールする必要がなく、インターネット上で必要な機能をすぐに利用できます。

クラウド中継システム『M2 Live』^{※5}

5月9日(月)より『M2 Live』のサービス提供を開始。『M2 Live』は、インターネット配信や報道中継等の様々なライブ映像制作用途を想定し、映像のスイッチング、テロップの重置、動画ファイル再生等、多様な映像処理をクラウド上で実現します。中継現場で映像をリアルタイムに切り替えて番組制作を行う中継車などの役割がクラウド上に構築されるため、場所を選ばず遠隔からの番組制作が可能。

また、多彩な映像入力フォーマットに対応し、SRT や RTMP といった汎用の映像伝送プロトコルにより、幅広いカメラとの連携が可能です。XDCAM メモリーカムコーダー『PXW-Z280』や『PXW-Z190』からは、ソニー独自の QoS 技術に対応することで、より安定した映像伝送が実現できます。さらにスマートフォンのカメラ映像を直接『M2 Live』へ伝送するモバイルアプリも同時開発し、より機動性の高い撮影、伝送、配信システムを実現するとしている。

参考サービス利用料: 月額 12 万円 (税別) ~

(無償トライアルも提供予定)

『Ci Media Cloud Services』が日本語 UI 対応、新機能も追加^{※7}

効率的なメディア共有・運用を実現するパブリッククラウド型 (SaaS^{※6}) の映像制作コラボレーションツール『Ci Media Cloud Services』は、5月上旬から提供開始するアップデートにより、日本語 UI (ユーザーインターフェース) に対応^{※8}するほか、手軽にファイルへの情報入力を行えるコメント機能や、オリジナルの高解像度ファイルから編集で使用された部分のみを切り出せる「Ci ワークフロー」機能^{※9}が追加される。また、PC 以外のデバイスからのアクセスや視聴を可能とする、スマートフォン用^{※10}と Apple TV 4K 用の 2 種類のアプリを提供開始する。

※ 7: 詳細はこちらのお知らせをご覧ください。

「クラウドベースの映像制作コラボレーションツール『Ci Media Cloud Services』の運用を拡大するエンタープライズ版を新たに発売」

※ 8: Web ブラウザーでの表示に対応。

※ 9: 出力フォーマットは VFX で使用される形式のみサポート。今後のアップデートにより拡張予定。

※ 10: iOS と Android に対応。

4. その他の映像制作ソリューション

映像制作の自由度と柔軟性を高めるバーチャルプロダクション

ソニーは、LED ウォールを用いたバーチャルプロダクション^{※11}の取り組みを加速させています。デジタルシネマカメラ『VENICE』や『VENICE 2』、および高画質 LED ディスプレイ Crystal LED B シリーズを組み合わせることにより、高品質なコンテンツ制作が可能となります。Crystal LED B シリーズは、撮影現場の照明の反射を抑える低反射コーティングと 170 度の広い視野角、狭い画素ピッチ (1.26 mm, 1.58 mm) で、カメラの位置や移動に柔軟に対応することが可能です。高解像・広色域に対応し、幅広い明暗差のある輝度条件において豊かな階調表現が可能な『VENICE』や『VENICE 2』との組み合わせは、色再現や階調表現における親和性が高く、編集作業の軽減とクオリティの高い映像制作を実現します。

※ 11: LED ウォールを用いたバーチャルプロダクションとは、大型 LED ディスプレイ、カメラトラッキングとリアルタイムエンジンを組み合わせた撮影手法のひとつ。3DCG を中心としたバーチャル背景を大型ディスプレイに表示し、現実空間にあるオブジェクトや人物を、カメラで撮影することで、後処理なく CG と実写を組み合わせた映像制作を実現します。

魅力的なスポーツ映像制作に貢献する「Hawk-Eye Replay (ホークアイ リプレイ)」

ソニー (株) のグループ会社である Hawk-Eye Innovations (ホークアイ・イノベーションズ 以下、ホークアイ) の提供する、スポーツ映像制作向けのソリューション。インターネットに接続できる環境下であれば場所を選ばずリモートでリプレイやハイライト映像の制作が可能としている。『Ci Media Cloud Services』などのクラウドサービスとも連携できるほか、ソニーのシステムカメラとの接続により、ハイレームレート映像のスロー再生も可能です。さらに、ホークアイの提供するプレー分析サービスから得られた多様なデータを紐づけたコンテンツ制作もでき、より魅力的なスポーツ映像制作が可能となります。

日本市場への提供予定は未定。

プロフェッショナル向けドローン『Airpeak (エアピーク) S1』^{※12}

2021 年から発売している『Airpeak S1』を NAB に初出展する。『Airpeak S1』は、独自開発のモーターやプロペラ、制御システム、センシング技術などにより、高い敏捷性を有しダイナミックかつ緻密な飛行が可能で、フルサイズミラーレス一眼カメラα搭載可能機種で世界最小クラスを実現していることから、映像制作クリエイターの創造力を余すことなく支援する。

会期中は、ブース内に設けられたステージで、『Airpeak S1』に関するプレゼンテーションも行う。

※ 12: 詳細はこちらのお知らせをご覧ください。

「プロフェッショナル向けドローン『Airpeak S1』の受注を開始」

※ 記載されている会社および商品名は、各社の商標または登録商標です。